

博については、明治期の人類館事件や欧米で人間を展示物にした歴史的な問題、その反省に立って博覧会の見直し問題が出てきた時代がありますが、その検証が十分になされたかについて、検討されるべきと考えます。また、ネット社会から見て、時代ずれの感があり、あり方も検討対象とすべきです。

会場選択について、IR カジノ誘致とは関係ないと吉村知事は発言していますが、信用できません。どう見ても、誘致ありきです。その結果、メタンガス発生・爆発や土壌改良等の多くの問題を発生させています。

IR カジノ誘致と切り離しても、オリンピックと同様に万博の費用の増加は問題であり、日本社会にとって見合うメリットがあるとは思えません。さらに、IR カジノ誘致のための基盤整備やどさくさ紛れの10兆を超える公共事業費が使われていますが、将来的に必要な基盤整備であるか、多額の維持費が発生するリスク評価が必要です。

4. IR カジノ誘致について

統合型リゾート（IR）について、これまでリゾート構想に失敗してきた歴史があり、焼き直しにすぎないものです。国際会議場整備についても、各地で建設され、中途半端さは否めません。今回も規模等を見ると国際競争に勝ち抜けるとは思えません。

IRの中核的事業はカジノであることは、全体の収益を見ても一目瞭然です。カジノの収益で社会を発展させるという発想は誤りで、生産性のない事業であり、価値を生み出さないものです。それに加えて、ギャンブル依存症をさらに拡大させ、社会に無駄な負荷をかけ、多くの家庭に不幸をもたらすものです。公営ギャンブルやパチンコで多くの弊害を生んでおり、行政は依存症対策等の適切な対応をとってきていません。さらに負荷がかかれば対応ができないことは見えています。

5. 国際港湾物流拠点・「夢洲」の重要性について

政府は国際コンテナ戦略港湾政策を打ち出しており、大阪港はその重要拠点となっています。地方自治体として、その意味を理解し、独自の戦略を打ち出すべきと考えます。しかし、大阪府・市はIRカジノに頭が一杯なのか、十分検討されたとは思えません。万博によって一